

# YABU DE MTB

## ～選ばれる中山間地になるために～

愛媛大学法文学部福井ゼミナール（指導教員：福井秀樹）

代表者：廣瀬温大

発表者：薦田真由、佐藤晴彦、高田美羽、廣瀬温大、藤谷洋智、本田真基

参加者：薦田真由、佐藤晴彦、高田美羽、廣瀬温大、藤谷洋智、本田真基

### 梗概

本論文では、選ばれる中山間地を目指し、養父市のもつ自然、歴史、文化、生活とマウンテンバイク競技とを融合し、「YABU DE MTB～選ばれる中山間地になるために～」というテーマのもと、3つのプランを提案する。

第1章では、スキー客数の動向から地域資源活用に余地が残ると分析し、「選ばれる中山間地」を定義する。

第2章では、養父市の現状を、基幹産業、人口動態、生産年齢人口と地域経済の課題の側面から分析する。ここでは、産業の拡充、都市圏からの移住および滞在型観光の促進を目標課題として挙げる。

第3章では、マウンテンバイクレース開催の意義を述べたのち、具体的なプロジェクトを3つ提案する。ここでは都市型マウンテンバイクレースを2種類、雪上マウンテンバイクレースを1種類挙げる。都市型マウンテンバイクレースでは、養父市が抱える文化的資源や自然景観をマウンテンバイクレースに一体的に活用し、観光客増加、経済活性、住民の地元への愛着醸成を図る。雪上マウンテンバイクレースでは、既存のスキー場を活用したマウンテンバイクのイベントを提案し、経験者、初心者問わず、雪と自転車を融合させた非日常体験の創出を目指す。これにより冬季の観光需要の多様化、養父市の独自性ある魅力発信が期待できる。

本論文は、「選ばれる中山間地」を掲げ、地理的、文化的な地域資源に富んだ養父市において、観光需要の拡大、郷土愛の促進が図られることで、持続的な地域発展への道筋を示すものである。さらに、マウンテンバイク競技を通じた地域ブランドの確立と、都市住民との新たな交流機会の創出を通じて、人口減少や経済停滞といった中山間地域共通の課題に対する一つの解決策を提示することを目的とする。

# 目次

第1章 テーマ定義.....	2
第2章 現状分析.....	3
第1節 基幹産業.....	3
第2節 人口減少.....	4
第3節 生産年齢人口と地域経済の課題.....	4
第1節 マウンテンバイクレースの開催及び意義.....	5
第2節 具体的なイベント概要.....	8
提案① Yabu Urban City Race.....	8
提案② City Bike Race in Yabu.....	11
提案③ 雪上ダウンヒルレース.....	12
第4章 展望と結論.....	15
<参考文献>.....	15

## 第1章 テーマ定義

兵庫県北部に位置する養父市は、豊かな自然環境と山岳地形に恵まれ、農林業を基幹産業として発展してきた。しかし、近年は人口減少と高齢化が進み、地域経済の停滞が課題となっている。観光面でも、温泉地やスキー場などの資源を有しながら、来訪者数の減少(図1)や滞在型観光の不足が指摘されている。

また、未活用の林道や里山など、地域の自然資源を生かしきれていない現状もある。こうした状況の中で、養父市が持つ自然・文化・景観を融合させた新たな地域振興策が求められており、本稿ではその一案として「マウンテンバイク(MTB)レース」の開催を提案する。なお我々は「選ばれる中山間地」とは、地域住民が郷土に誇りを持ち、国内外から持続的に人々が訪れる地域と定義する。

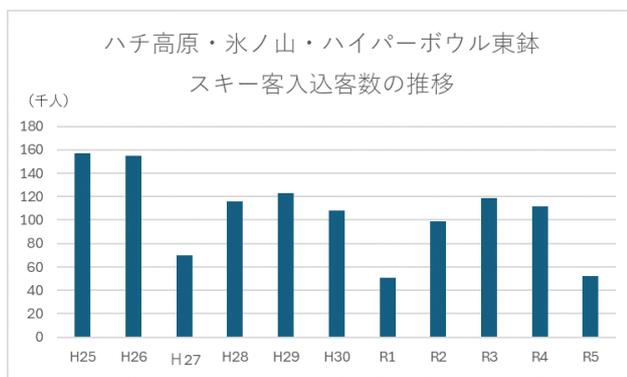


図1 養父市 スキー客数推移(筆者作成)

出典：兵庫県ホームページ「兵庫県/観光客動態調査」  
より筆者作成

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr16/documents/r5doutaityousa.pdf> (2025年10月24日閲覧)



図2 mtb レースのイメージ画像

出典：尾道観光協会

尾道観光協会 - 『RED BULL HOLY RIDE』

## 第2章 現状分析

### 第1節 基幹産業

#### 第1項 農業

養父市の農業は、清らかな水と肥沃な土壌を活かした水稻生産が中心であり、養父市の蛇紋岩コシヒカリは但馬地域のブランド米のひとつとして知られている。また、有機農業への取り組みも進められており、持続可能な農業モデルの構築が模索されている。加えて、但馬牛やブロイラー飼育などの畜産業も盛んであり、地産地消の推進や都市圏への出荷も行われている。一方で、農業従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加が大きな課題である<sup>ii</sup>。畜産や林業など地域資源を生かした産業も確かに存在するが、労働力の減少が将来的な維持を困難にしている。

#### 第2項 観光業

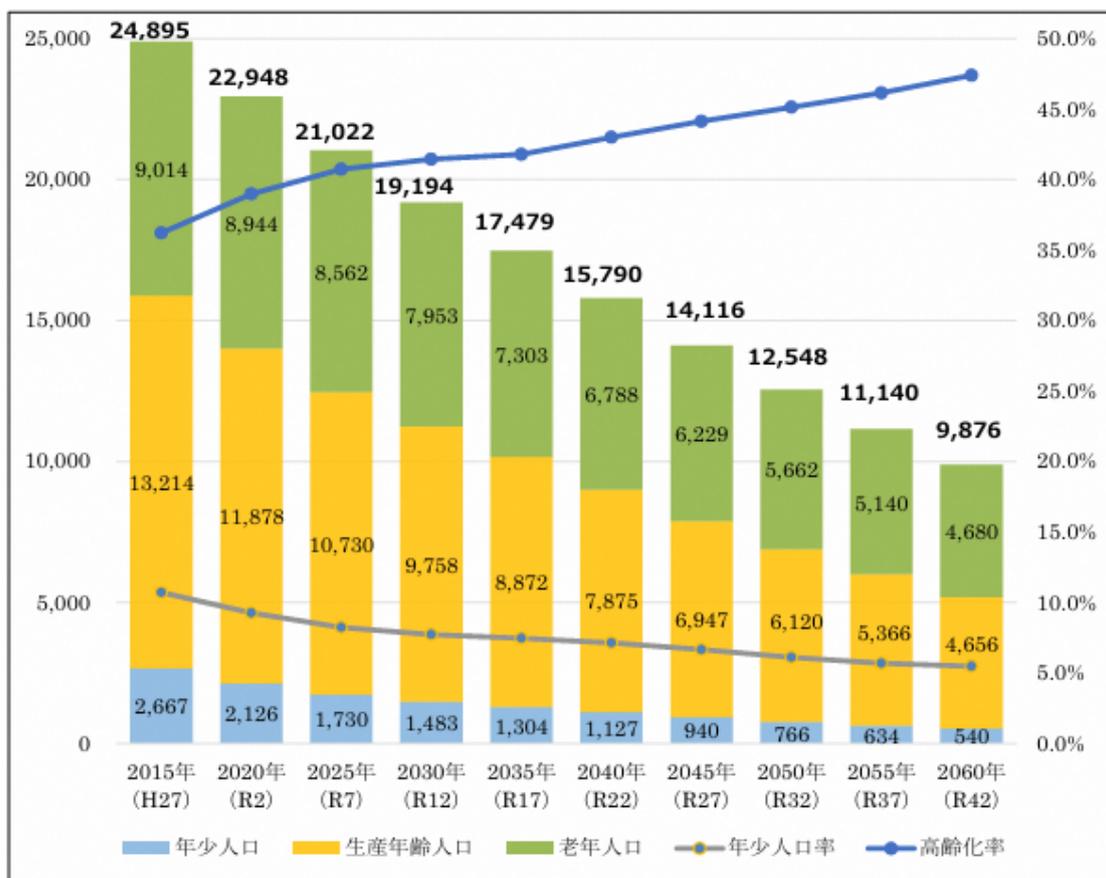
観光は、養父市の主要な産業の一つである。市内にはハチ北高原や氷ノ山スキー場などの山岳観光地があり、冬季はスキーやスノーボードを目的とした観光客で賑わう。また、夏季には登山やキャンプ、学生の合宿など多様な形で観光需要がある。近年では、明延鉱山・中瀬鉱山などの産業遺産を活用した観光にも力を入れており、地域資源を生かした観光振興が進められている<sup>iii</sup>。しかし、観光入込客数（令和5年度）は約92万人で、日帰り客が宿泊客よりも圧倒的に多い（比率751:169）ことから、滞在型観光の推進が今後の課題である。

#### 第3項 産業振興と特区制度

養父市は、2014年に規制緩和や制度改革を推進する国家戦略特区に指定され、農地の企業利用や観光資源の活性化などを実施してきた。これにより、企業による農業参入や地域内交通の改善など、新たな産業振興の試みが進んでいる。しかし、現状では特区の効果が地域全体に十分浸透しているとは言えず、民間活力をより活かす政策運用が求められている<sup>iv</sup>。

## 第2節 人口減少

養父市は、少子高齢化と人口減少が深刻化している。令和2年の人口は22,129人<sup>v</sup>であり、2030年には約18,000人、2040年には約13,000人まで減少する<sup>vi</sup>（図2）と推計されている。高齢化率は42.0%（令和7年）と兵庫県平均（29.7%）<sup>vii</sup>を大きく上回っており、県内で見ても高い水準にある。若年層の流出も顕著であり、令和4年～6年度まで転出超過の状況が続いている<sup>viii</sup>。特に進学や就職を機に都市部（神戸・大阪など）へ移る若者が多く、地域に定着する若年層が限られている。また、U・Iターン支援制度を利用した移住世帯は15世帯<sup>ix</sup>にとどまり、都市圏からの移住促進が課題である。出生数の減少も進行しており、地域社会の維持に向けて、子育て支援・雇用創出・教育機関との連携などの多角的対策が求められる。



出典「まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略」より

図 2

## 第3節 生産年齢人口と地域経済の課題

養父市では、生産年齢人口（15～64歳）の減少が顕著であり、地域経済への影響が大きい。農業・観光業・サービス業などの分野では人手不足が深刻化しており、企業や商店の廃業も増加して

いる。観光客数の減少や消費額の伸び悩みも見られ、地域経済の縮小が懸念されている。また、人口減少に伴い、税収減少や公共サービスの需要減少が進行することでサービスの維持にも課題が生じている。その一方で、豊かな自然や農業資源、観光ポテンシャルを生かした地域再生の余地は大きい。今後は、地域資源を活かした観光の高付加価値化、都市圏との関係人口の創出、テレワーク移住の推進などを通じて、「選ばれる中山間地域」としてのモデル形成が期待される。

## 第3章 プロジェクト提案

### 第1節 マウンテンバイクレースの開催及び意義

本提案では、養父市の地形的特徴と自然資源を最大限に活用し、マウンテンバイクレースを通じて地域経済・観光・地域愛を結びつけることを目的とする。マウンテンバイクは自然と共生しながら楽しむスポーツであり、既存の林道や山道を再活用できる。放置林道の整備は地域景観の維持や防災にも寄与し、地域全体の持続可能性を高める。さらに、イベント運営において地域住民・学生・企業が連携することで、地域の誇りと一体感が生まれる。特に若者層や子育て世代の移住促進、観光客のリピーター化などの波及効果が期待できる。

#### 第1項 期待される効果

##### 1. 経済の活性化

MTB レース開催により、観光客や参加者の宿泊・飲食需要が生まれる。特に、地方での開催は「非日常体験」を求める都市部のアウトドア層に強く訴求するため、経済的波及効果が期待できる。また、地域内での雇用（運営スタッフ、ガイド、整備員など）の創出も可能である。

##### 2. 自然資源の有効活用と持続可能性

マウンテンバイクは自然環境と共存しながら行うスポーツであり、森林や山道の整備が必要となる。これにより、長年放置されてきた林道や休耕地が新たな資源として活用され、環境保全意識の向上にもつながる。また、地元の林業関係者や環境団体と連携することで、持続可能な形で自然と経済のバランスを図ることができる。

##### 3. 若者・移住者の呼び込み

マウンテンバイクを含むアウトドアアクティビティに魅力を感じる若年層や子育て世代にとって、自然豊かな養父市は移住先として魅力的になり得る。定期的なイベントやトレイル整備、地域コミュニティとの交流機会があれば、「観光」から「定住」へのステップを踏む人材が現れる可能性がある。

##### 4. 地域の一体感と誇りの醸成

レース運営には多くの人手が必要であり、地元の学校、自治体、企業が協力することで、地域の一体感が生まれる。また、全国規模のイベントが地域で成功すれば、住民の誇りや自信にもつながり、地域に対する愛着、いわゆる郷土愛の育みへの貢献が期待できる。

## 第2項 兵庫県養父市で行われているマウンテンバイクレースの事例

兵庫県養父市では、現在のところ「マウンテンバイクレース（競技型）」の開催実績は明確に確認されていない。しかし、近年はマウンテンバイクの普及やアウトドアスポーツを活かした地域活性化を背景に、MTB フィールドの整備や自転車関連イベントが実施されるなど、着実に基盤づくりが進んでいる。

特に注目されるのは、養父市大屋町明延地域に整備された「養父トレイル」である。このエリアでは、廃道となっていた神社の参道や林道を活用し、マウンテンバイクが走行できるコースやパンプトラック（起伏のある子ども用コース）が整備されており、地元住民や来訪者に利用されている。これは、地域の放置資源をスポーツ観光に転換する取り組みとして高く評価できる。

また、養父市と隣接する朝来市にまたがる「南但馬グリーンライド」では、自転車によるロングライドイベントが開催されており、サイクリングを通じた広域観光や地域連携の先進事例となっている。これはマウンテンバイクとは種目が異なるが、自転車を軸とした地域イベントとして参考になる取り組みであり、養父市における自転車スポーツの受け入れ体制が一定程度存在していることを示している。

これらの事例は、養父市におけるマウンテンバイクレースの開催に向けた「土壌」が整いつつあることを示唆している。すでにコース整備や地域の受け入れ実績があることから、今後はこれらを発展させ、「競技型レースイベント」の開催に踏み切ることが現実的な段階に入っているといえる。競技性を持たせたイベントを開催することで、全国からの参加者誘致やメディア露出、地域経済の活性化など、より大きな効果が期待できる。

総じて、養父市においてはマウンテンバイク活用の素地がすでに存在しており、次のステップとして競技型レースの開催を提案することは、自然資源の有効活用、地域ブランディング、交流人口の増加といった観点から非常に有意義である。

ここで、実際に兵庫県養父市でマウンテンバイクレースを開催した際の大まかな収支計算を行う。参加費一人当たり 8000 円とし、約 200 人の参加者を想定した規模のイベントを実施すると仮定。

- 参加者：200 人(広島県尾道市など国内で実施された過去の mtb レースを参考に算出)
- 参加費：8,000 円/人
- 規模：中規模地域イベント（1 日開催）
- 会場：養父市近郊の山間部（林道・特設コース）

を前提条件とし、

項目	内容	金額（円）
参加費収入	200 人 × 8,000 円	1,600,000
スポンサー協賛金	地元企業・自転車店・観光協会など	300,000

出店料	キッチンカー・地元産品ブースなど（5店舗）	50,000
自治体補助金	養父市観光振興やスポーツイベント助成	200,000
グッズ販売	記念Tシャツ・限定グッズ	50,000
収益合計		2,200,000円

といった収益が見込まれる。そして、費用の見込みに関しては、

区分	内容	金額 (円)
コース整備・設営	コース整備・看板・安全フェンス	300,000
保険・救護	スポーツ保険、救護スタッフ・救急車待機	100,000
許認可・使用料	山林・公園使用料、行政手続き	30,000
タイム計測・ゼッケン	チップ計測システム・ゼッケン印刷	150,000
スタッフ・警備	受付・誘導・交通整理など（有償ボランティア中心）	200,000
設備・レンタル	テント、音響、机椅子、発電機など	250,000
広報・宣伝	チラシ・SNS広告・地元メディア掲載	100,000
参加賞・景品	記念品・表彰トロフィーなど	200,000
雑費・予備費	飲料、備品、緊急対応など	70,000
費用合計		1,400,000 円

上記のようになると考えられる。よって、

項目	金額（円）
収益合計	2,200,000
費用合計	1,400,000
純利益（黒字）	800,000円

といった損益計算結果が得られる。

### 第三項 まとめ

養父市におけるマウンテンバイクレースの開催は、単なるスポーツイベントではなく、地域の未来を切り拓く戦略的な取り組みとして位置付けることができる。自然資源を活かし、地域経済を活性化し、外からの人を呼び込み、内なる誇りを育てる。このような多面的な効果を持つ MTB

レースは、養父市の再生と持続可能な発展に向けた有力な手段である。今こそ、地域資源の新たな活用に挑戦する時ではないだろうか。MTB レースは他のメジャースポーツと比べ、なじみが薄いのも事実である。しかし世界を見れば、MTB 市場は成長をしており、日本においても将来性のある競技の 1 つだと言えるだろう。

## 第 2 節 具体的なイベント概要

### 提案① Yabu Urban City Race

#### ー まちなか×文化資源の融合ー

##### 第 1 項 開催の意義と目的

本提案は、兵庫県養父市の中心市街地および周辺の文化・自然資源を活用し、都市型マウンテンバイクレース「Yabu Urban City Race（仮称）」の開催を目指すものである。

近年、全国各地で「まちなかスポーツイベント」を通じた地域活性化の取組が進展しており、スポーツを軸とした観光・文化・健康の融合が注目されている。特に地方都市では、スポーツツーリズムの導入が地域経済の活性化と住民交流促進の新たな手段として注目されている。

養父市は、山と川に囲まれた地形を有しながらも、中心市街地には神社や宿場町など歴史的景観が残る都市である。この特徴を生かし、「自然と文化の融合」をテーマとした本イベントを開催することで、若年層や観光客の来訪促進、地域住民の誇りと協働意識の醸成、そして地域ブランド力の向上が期待される。

本イベントは単なるスポーツ大会にとどまらず、地域文化・観光・まちづくりを結びつける公共的取組として意義を有するものであり、将来的には「選ばれる中山間地域」としての養父市の位置づけを高めることを目指す。

##### 第 2 項 アーバンダウンヒルの概要

アーバンダウンヒルとは、都市部の坂道・階段・街路を利用して下るタイムトライアル形式の自転車競技である。特徴として、「ハイスピード」「幅の狭いコース」「階段・段差」「沿道観客との近距離感」が挙げられる。<sup>x</sup>

通常のロードレースや山岳レースと異なり、選手は一人ずつ走行し、計測されたタイムによって順位を競う。2000 年代初頭にポルトガルの【Red Bull Lisbon Downtown】で注目を集め、その後、チリ・バルパライソで行われる【Red Bull Cerro Abajo】など、世界的にも人気を博している。日本国内でも「Red Bull Holy Ride」（広島県尾道市・大阪府河内長野市など）として実施された実績があり、都市と自然が近接する中山間地域での開催に適している。

##### 第 3 項 イベント概要

本イベントは、養父市中心部の神社・市街地・河川敷といった地域資源を活かした都市型マウンテンバイクレースである。山岳地で行われる従来の MTB レースと異なり、まちなかを舞台とすることで、地域住民が身近に感じ、主体的に関わることができる。

開催時期は紅葉が見ごろを迎える 11 月上旬を想定する。この時期は天候も安定しており、養父神社や円山川河川敷の景観が最も美しく映える。観光客に対しては、紅葉狩りや温泉など既存観光資源との連携により、複数日滞在を促す。

レース会場周辺には、地元商店や飲食店の出店スペースを設け、観客が地元の食を楽しみながら観戦できる環境を整える。また、学生ボランティアや地域団体による運営補助・応援企画を行うことで、市民参加型のイベントとしての一体感を創出する。

競技形式はオープンエントリー制を採用し、国籍・性別・年齢を問わず参加を可能とする。さらにレース翌日には初心者向けの体験会を実施し、将来的に参加者層を拡大していく循環型イベントを目指す。

#### 第 4 項 コース構成（全長約 4km）

コースは、養父神社をスタート地点、JR 八鹿駅前をゴール地点とする全長約 4.0km とする。地形の高低差・安全性・観戦性のバランスを考慮した、以下の 4 区間で構成する。

##### （1）序盤：養父神社～養父公民館前（約 0.8km）

スタート地点の養父神社は、養父市の象徴的存在であり、参道の石段からのスタートは観客にも強い印象を与える。安全祈願と開会式を兼ねたセレモニーを境内で行い、伝統とスポーツの融合を演出する。序盤は狭路が多いため、観客整理や誘導員配置など安全対策を徹底する。

##### （2）中盤：公民館前～旧宿場町エリア（約 1.0km）

緩やかな下り坂を経て、旧宿場町・八鹿宿通りへと入る。街並みの中に人工ジャンプ台やスラローム要素を設け、観戦者にとっても視覚的に楽しめるコース設計とする。商店街沿いには飲食・物販ブースを設け、地域商業の賑わい創出を図る。

##### （3）後半：市街地～円山川河川敷（約 1.5km）

市街地を抜け、円山川沿いの直線路に入る。この区間はレースのスプリントゾーンとして、スピード感あふれる展開が期待される。ドローン撮影やメディア露出にも適した風景が広がり、養父市の自然美を映像的に発信できる。

##### （4）フィニッシュ：円山川～JR 八鹿駅前（約 0.7km）

河川敷から市街地に戻り、歴史的街並みが残る八鹿宿通りを抜けて JR 八鹿駅前でフィニッシュする。ゴールエリアでは吹奏楽演奏や地域団体によるパフォーマンスを実施し、表彰式・閉会式を隣接公園で行う。観客と選手が自然に交流できる空間づくりを目指す。

#### 第 5 項 イベント詳細

- ・ 想定参加者数：最大 200 名
- ・ 参加資格：13 歳以上（18 歳未満は保護者同意書必要）
- ・ 参加費：8,800 円（保険料・運営費含む）

- ・体験会：定員 300 名を想定。市民・観光客を対象とし、初心者向けの安全講習や試走体験を実施。
- ・観客動員数（想定）：延べ 1,000～1,200 人
- ・開催時期：11 月上旬（紅葉期）
- ・スタッフ・ボランティア：市民ボランティア・大学生・観光協会職員など計 100 名程度で構成。
- ・所要時間：上位選手で 8～10 分、一般参加者で 15～20 分
- ・会場設営・交通規制期間：前日夜～当日夕方まで
- ・協力機関：兵庫県、養父市、日本マウンテンバイク協会

#### 第 6 項 運営体制および安全対策

運営は、市・観光協会・商工会・教育機関・地域団体による実行委員会方式を基本とする。

交通規制や安全確保については、警察署・消防署との協議のもとでコース沿道の一時通行止め（約 2 時間）を実施する。

また、沿道整理・誘導・給水などには、市内や近隣の学生のボランティアを募集、配置し、市民協働による安全な大会運営を目指す。

#### 第 7 項 経済的波及効果

本イベントは、単なるスポーツ競技にとどまらず、地域経済の活性化に資する新しい都市型観光コンテンツとしての側面を有する。ここでは、養父市内における経済的波及効果を概算し、その潜在的な地域貢献の規模を示す。

まず、レース参加者 200 名、観客延べ 1,000 名、そして二日目の体験会参加者 300 名を想定する。これらの参加者がそれぞれ飲食・交通・物販等で平均 3,000 円を消費した場合、直接的な経済効果は約 450 万円となる。また、この支出が市内の事業者に循環することにより、仕入れ・雇用・物流などの二次的な効果が発生し、地域経済への波及が期待される。

さらに、観客・参加者の約 2 割（200 人程度）が宿泊を伴う滞在型観光を行うと仮定し、宿泊・飲食・土産品購入等を通じた追加消費は約 200 万円と考える。これらを総合すると、本イベント全体としての経済的波及効果はおよそ 1,000 万円規模に達することが見込まれる。

また、イベントの継続開催や認知度の向上により、将来的には参加者・観客数の増加、関連イベントの開催、地域ブランド化などを通じて、年 1,500 万～2,000 万円規模の経済波及効果を持つ持続的な都市型イベントへと成長する可能性がある。こうした定着型の取り組みは、地域内経済循環の促進だけでなく、「若者の地域定着」や「観光とスポーツを融合したまちづくり」の実現にも資すると考えられる。

#### 第 8 項 まとめ

本提案は、養父市が有する「自然・歴史・文化・生活」の多様な地域資源を、スポーツを通して一体的に活用するものである。

養父神社・旧宿場町・円山川といった象徴的空間を舞台に開催することで、地域の誇りを再認

識し、市民が一体となって盛り上げる契機となる。

本イベントは、地域住民・若者・観光客をつなぐ新しい形の都市型イベントとして、「まちなかを走るレース」から「まち全体を動かすレース」へと発展することを目指す。

## 提案② City Bike Race in Yabu

### ― 住宅地・学校エリアを舞台にした住民参加型レース ―

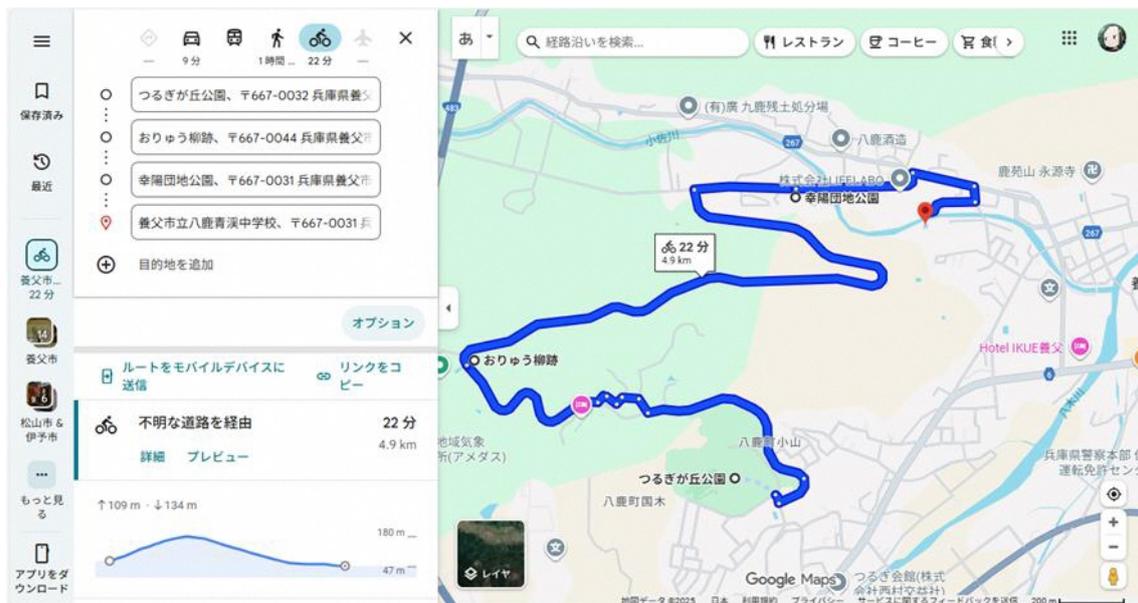


図1 市街地コース想定図

出典 養父市立八鹿青溪中学校 - Google マップ<sup>xi</sup>

## 第1項 概要

養父市立八鹿青溪中学校をスタート地点とする。街中の風景を選手ならびに観客の人に楽しんでもらうために、幸陽団地前公園沿いに移動、しばらく直進したのちおりゅう柳跡につながる道を走行する。そのまま山道を走ってつるぎが丘公園にゴールしてもらう。本レースは全長約5キロ、高低差約140mとなっている。想定タイムは22分としているが、選手の実力次第では大幅に短縮されると思われる。八鹿小学校周りも学校の敷地を使えばレースを行うことも可能だ。市民が直接見やすい場所であるため、観戦もでき屋台や露店を道路沿いに出すことが想定され、地域活性化や地元住民との親密な交流が予想される。しかし道路使用許可をとることができない可能性もあるため、コースの確認を含めた入念な準備が必須となってくる。このコースで開催する利点は主に地域経済の活性化、健康・福祉の促進、環境にやさしい観光モデルの構築、地域アイデンティティの強化などがある。一つずつ簡単に確認したい。

### 1. 地域経済の活性化

- ・レース参加者や観客の来訪により、宿泊施設・飲食店・観光地への経済波及効果が期待される。
- ・地元企業との協賛・連携により、地域ブランドの向上が図れる。

- ・新たな観光資源として継続して観光客を呼び込むことが可能。

## 2. 健康・福祉の促進

- ・市民の運動習慣の定着を促進し、健康寿命の延伸に寄与する。
- ・高齢者や子ども向けの体験イベントを併設することで、世代間交流の場を創出できる。

## 3. 環境に優しい観光モデルの構築

- ・自然環境を保全しつつ、地域の魅力を発信する手段として有効である。

## 4. 地域アイデンティティの強化

- ・歴史的建造物や自然景観を巡るコース設計により、地域の文化的価値を再認識する機会となる。
- ・地元住民の参画を促すことで、地域への誇りと愛着を醸成する。

## 第2項 イベント詳細

- ・想定参加者数：最大 200 名
- ・参加資格：13 歳以上（18 歳未満は保護者同意書必要）
- ・参加費：8,000 円（保険料・運営費等含む）
- ・体験会：定員 200 名を想定。市民・観光客を対象とし、初心者向けの安全講習や試走体験を実施。
- ・観客動員数（想定）：1,000～1,200 人
- ・開催時期：11 月上旬（紅葉期）
- ・スタッフ・ボランティア：市民ボランティア・大学生・観光協会職員・市役所職員など計 100 名程度で構成。
- ・所要時間：1 周 約 20 分（一般人、プロによって変動あり）
- ・会場設営時期：前日午前から翌日午後まで
- ・協力機関：兵庫県、養父市、日本マウンテンバイク協会

## 提案③ 雪上ダウンヒルレース

### — 冬季観光の多様化とスキー資源の再活用 —

本提案では、冬季限定イベントとして、冬季のハチ高原スキー場を舞台に2日間にわたる雪上マウンテンバイクイベントの開催を提案する。

DAY 1 は、中級者から上級者を対象とし、⑩ダウンヒルコースを利用した雪上ダウンヒルレースを実施する。コースはハチ高原の山頂付近からゲレンデを縫うように設定し、リフトを利用した搬送システムを活用することで、既存のスキーインフラをそのまま有効に用いる。雪面特有の

滑走感とスピード感を活かした本格的なレース設計とし、転倒防止や安全確保のための圧雪整備やコースネットを導入することで、迫力と安全性を両立させる。標高差を活かしたダイナミックなコースは、雪上での特別な体験を求める MTB 愛好者にとって強い魅力を持ち、全国各地からの参加者誘致につながる事が期待される。

DAY2では、③中央ゲレンデペアコースを活用した初心者向けの雪上体験プログラムを実施する。専用のスパイクタイヤ付き MTB やレンタル装備を用意し、家族連れや観光客、地元の子どもたちがインストラクターの指導のもとで安全に雪上走行を体験できるようにする。これにより、競技者だけでなく一般来訪者も楽しめる「参加型・体験型イベント」としての広がりを持たせることができる。さらに、同会場では地元特産品の販売ブースや温かい郷土料理を提供する飲食コーナー、環境教育プログラムなどを併催し、地域の魅力発信と来訪者との交流促進を図る。

このように、冬季における雪上 MTB イベントの開催は、既存のスキーリゾート資源を新たな形で活用し、ウィンターシーズンの観光需要を多様化させるだけでなく、ハチ高原ならではの「雪と自転車の融合」という独自性を生み出す取り組みとなる。



図2 ハチ高原スキー場ゲレンデマップ  
出典：【公式】ハチ高原観光協会 ハチ高原スキー場ゲレンデガイド

xii [コース&ゲレンデ | ハチオフィシャルガイド](#)

[| 関西・兵庫県で ...](#)

## 開催概要

- ・開催場所：兵庫県養父市 ハチ高原スキー場
- ・開催期間：2日間（2月下旬～3月上旬）
- ・開催内容：1日目-経験者向けスノーダウンヒルレース(200名)

## 2 日目-初心者・観光客向け体験イベント(300 名)

- ・参加費用：1 日リフト券含め 6,000 円
- ・レンタル料：大人-3,000 円 / 子供-2,000 円  
(参考：北信州・戸狩温泉スキー場)
- ・宿泊施設：ハチ高原および周辺のホテル・旅館（例：谷常 204 名、やまなみ 200 名、かねいちや 280 名など）
- ・協力機関：兵庫県、養父市、日本マウンテンバイク協会、スキー場運営会社

### 開催上の留意点

本イベントの実施にあたっては、法的・安全的・環境的・運営的観点から複数の事項に留意する必要がある。

本イベントで大会コースとして使用する範囲はスキー場の既存滑走路に限られるため、原則として新たな開発行為には該当しないが、事前に兵庫県但馬県民局環境課等の関係行政機関と協議を行い、土地占用・利用許可の要否を確認することが望ましい。または、スノーダウンヒルのためにゲレンデや林道を改変する場合、森林法に基づき、林地開発許可が必要な可能性がある。また、自然公園法施行規則に従い、コース造成・安全柵設置・観客エリア設置などにあたっては許可、届出が必要である。

次に、安全管理面において、雪上でのダウンヒルは転倒・衝突等のリスクが高いため、日本自転車競技連盟規則集に準じた装備を義務化、および救護班・医療機関との連携体制を整備することが不可欠である。イベントの運営責任者は、参加者に対し事前に誓約書兼同意書を提出させ、自己責任の範囲を明示しておくことが推奨される。

運営体制の面では、イベントの公式な主催者を明確にし、市・観光協会・スキー場運営会社・日本マウンテンバイク協会（JMA）との協定を締結しておくことが重要である。特に公的施設を利用する場合、地方自治法 238 条に基づき、公共施設の目的外使用許可が受ける必要がある場合がある。特に行政や地元事業者との協働を通じて、法的・社会的なリスクを最小化する体制を整えることが、持続的なイベント運営の前提条件となる。

スノーダウンヒル開催にあたっての懸念点と今後の課題もある。温暖化による不安定な積雪やスキー営業との調整から、開催時期がまばらになってしまうことがある。また、イベント開催に関連して、スノーダウンヒルが一過性イベントになってしまう可能性もあるため、雪山と自転車の定着戦略が必要である。加えて、開催にあたって、地域住民の理解も得る必要がある。騒音、渋滞など地域住民に不便が生じることが予想されるため、事前説明会の実施が求められる可能性もある。

## 第4章 展望と結論

本論文では、兵庫県養父市が「選ばれる中山間地」となるための方策として、養父市の現状分析を行うとともに、当地域の地理的および歴史的特性を生かしたマウンテンバイク（MTB）レースの開催を提案した。我々が提案する本レースは、単なるスポーツイベントにとどまらず、地域文化・観光・まちづくりを有機的に結びつける公共的取組として意義を有するものである。

具体的な政策的意義としては以下の4点が挙げられる。

- ①経済波及効果の創出（地域内消費の循環化）
- ②地域資源の再評価と持続的活用
- ③若年層の定着・移住促進
- ④市民主体のまちづくりモデル形成

特に、行政・民間・住民が一体となって推進する点において、養父市モデルは全国の中山間地域に応用可能な先進事例となり得る。マウンテンバイクというスポーツを通じて、地域の魅力を「見る」から「体験する」へと転換し、「選ばれる中山間地」への道を切り拓くことができるだろう。そして、MTBレースが兵庫県を代表するイベントとして定着し、地域住民が誇りを持つと同時に、国内外から人々を引き付ける契機となることを期待する。

### <参考文献>

---

i 1 兵庫県ホームページ「兵庫県 / 観光客動態調査」  
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr16/documents/r5doutaityouusa.pdf>（2025年10月24日閲覧）

ii 養父市ホームページ「公共政策フォーラム 2025in 養父」  
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/kikakusomu/kikaku/koukyouseisakuforum2025/12690.html>（2025年10月24日閲覧）

iii 養父市ホームページ「公共政策フォーラム 2025in 養父」  
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/kikakusomu/kikaku/koukyouseisakuforum2025/12690.html>（2025年10月24日閲覧）

iv 兵庫県ホームページ「兵庫県 / 観光客動態調査」  
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr16/documents/r5doutaityouusa.pdf>（2025年10月24日閲覧）

v 政府統計の総合窓口「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」  
<https://www.e-stat.go.jp/>（2025年10月24日閲覧）

- 
- vi GD Freak! 「グラフで見る養父市の人口推移」  
<https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001028222/1> (2025年10月24日閲覧)
- vii 兵庫県庁「高齢者保健福祉関係資料(高齢化率)(令和7(2025)年2月1日現在)」  
[https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf02/hw07\\_000000012.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf02/hw07_000000012.html) (2025年10月24日閲覧)
- viii 養父市ホームページ「養父市 転入・転出時アンケート結果報告」  
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/material/files/group/12/matome.pdf> (2025年10月24日閲覧)
- ix 養父市ホームページ「養父市まちづくり計画」40ページ  
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/shiminseikatsu/yabugurashi/Yabucitymachidukurikeikaku/index.html> (2025年10月24日閲覧) 2025年10月24日閲覧)
- x Red Bull『Urban downhill mountain bike racing –what is it?』(2024)  
『【マウンテンバイク・アーバndaウンヒルとは?】MTB 高速ストリートレースの 基本を知る』(2022)
- xi 養父市立八鹿青溪中学校 - Google マップ
- xii コース&ゲレンデ | ハチオフィシャルガイド | 関西・兵庫県で ...